

兵庫県立嬉野台生涯教育センターにおける 資格取得と活用の現状

中 井 之 夫

(兵庫県立嬉野台生涯教育センター)

はじめに

兵庫県立嬉野台生涯教育センターは、昭和54年7月、県全域を対象とする生涯教育の拠点として設置された。また、東播磨の地域に県立文化会館が設置されていないため、この地域の文化、スポーツ、レクリエーションの振興といった事業も担当している。

位置的には兵庫県のほぼ中央、加東郡社町にあつて、国立兵庫教育大学と接しており、敷地面積40万㎡余り、この中に本館、学習交流棟、体育館、青少年宿泊研修棟(定員480名)、成人宿泊棟(定員58名)、体験工作棟、スポーツ管理棟、食堂等の建物と、キャンプ場、スポーツ広場、テニスコート、冒険の小川などの野外活動施設が整備されている。

また、当センターは、①生涯学習の場の提供、②生涯学習の機会の提供、③生涯学習指導者の育成、④生涯学習情報の提供及び学習相談、⑤生涯学習の調査研究といった五つの機能を持っている。このような機能に基づいて当センターでは、各種の教養講座、研修会等の事業を数多く実施しているほか、各種の指導者養成講座なども実施しており、その多くに修了証書を出している。しかし、それらの殆どは、社会的な評価なり、活用といった視点からのものではなく、一つの区切りや励みとしての要素が強い。

したがって、ここでは学習の成果としての資格が、①何らかの社会的な評価を既に得て活用されているもの、②社会的な評価の定着を狙いとしているもの、といった視点から、「両親教育インストラクターの養成とその活動」「青少年指導ボランティアの養成」「兵庫教育大学の実地教育と生涯教育センター事業の連携」の三つを、資格関連の事業として紹介することとしたい。

1. 両親教育インストラクターの養成とその活動

(1) 両親教育インストラクター設置のねらい

最近の社会構造の変貌の中で、核家族化や少子化の傾向が一層進むなど、子育てをめぐる環境が大きく変化してきている。家庭内では親子のふれあいが少なくなり、地域社会における家族同士のつながりも希薄になっている。そのため、子育ても孤立化し、過保護、過干渉、無関心、あるいは無責任といった親の養育態度など、子育てに関する不安や混乱が増大している。

兵庫県においては、安定感を欠いた親の子育ての現実を克服し、地域社会において親と親、親と子、子と子がお互に関わり合い、励まし合える関係を家庭や地域における日常生活の中につくっていくため、「両親教育インストラクターの養成」と「子育て学習センター」への支援を進めている。

「子育て学習センター」は、市町が公民館や小学校の空き教室等を利用して設置し、両親教育インストラクターを配置して地域における親達の不安に応えるとともに、その活動を通して、家庭や地域の教育力を高めようとするものである。

両親教育インストラクターの養成は、当生涯教育センターで平成元年度からはじめられ、平成5年度で県下91の全市町をカバーし、平成6年の4月からは県下の全市町に「子育て学習センター」が設置されている。

両親教育インストラクターは、子育てについての相談や子育てグループの育成、親子の交流の場づくりなど、子育て学習センターの活動を推進する役割を持っている。

また、両親教育インストラクターには、地域社会の中に溶け込み、地域の人々の信頼の中で気軽に子育てについての相談に応じたり、子育ての為にグループワークのリーダーとしての活躍を期待しており、相談専門機関のカウンセラーのような役割は期待していない。したがって、両親教育インストラクターの養成講座においては、インストラクターの役割、人間の発達や教育についての幅広い知識、グループの育成など、適正な判断力を持って行動できる人材の育成を狙っている。

(2) 両親教育インストラクターの養成経過

両親教育インストラクター養成講座の受講者は、教員、保母、保健婦等の資格を有する者等で、各市郡町教育委員会が推薦した者を対象としている。講座は概ね19日間で、

- | | | |
|--------------|------|--------|
| ① しつけの基本 | (講義) | (20時間) |
| ② 子供の発達段階の理解 | (講義) | (25時間) |

- | | | |
|---------------------|---------|--------|
| ③ 子供の保育と保健 | (講義) | (25時間) |
| ④ 人間関係づくりとグループの組織論 | (講義と実習) | (20時間) |
| ⑤ 相談活動(カウンセリング)の進め方 | (講義と実習) | (20時間) |
| ⑥ 実地研修(電話相談、遊戯など) | (実習) | (10時間) |

の合計120時間である。

養成講座は平成元年度から四期にわたって実施され、次に示すように117名が資格を取得し、91名が現在インストラクターとして活躍している。

- | | | |
|-----|---------|-------|
| 第一期 | (平成元年度) | 31名修了 |
| 第二期 | (平成3年度) | 31名修了 |
| 第三期 | (平成4年度) | 26名修了 |
| 第四期 | (平成5年度) | 29名修了 |

合計 117名修了

なお、両親教育インストラクターの子育て学習センターへの複数配置及び欠員補充といった目的で、平成6年度も30名程度の養成を行うこととしている。

(3)子育て学習センターの設置状況

平成2年度には平成元年度に養成した31名の両親教育インストラクターを配置して、31ヵ所の子育て学習センターが設置された。その後、平成4年度には23ヵ所(計54)、平成5年度には18ヵ所(計72)、平成6年度には19所が設けられて、現在では県下の91の全市町に子育て学習センターが設置されている。

なお、子育て学習センターの設置場所は、公民館が最も多く47ヵ所、その外はかなり分散しており、小学校、幼稚園、教育センター、教育委員会、図書館、青少年センター、武道館、児童館、その他の福祉施設などである。

(4)両親教育インストラクターの活動状況

子育て学習センターは、土曜日又は日曜日を含んで一週間に4日以上、1日に4時間以上開設しており、両親教育インストラクターの主な業務は、

- ① 子育ての相談(面接又は電話等)
- ② 子育てグループの育成
- ③ 子育て等についての情報の提供
- ④ 子育て等の講座の講師の斡旋、派遣
- ⑤ 子育て等の講習会の企画、開催
- ⑥ 地域の子育てリーダーの支援

等である。

子育て学習センターは、児童相談所や保健所等のような専門の相談機関ではなく、必要があればそれぞれの機関に繋ぐ施設であり、地域の親達が気軽に利用で

きることを狙いとしている。

それだけに、両親教育インストラクターの献身的な善意に支えられた雰囲気と、気軽さが利用者に与える影響は大きく、相談件数や利用者数も年とともに増加している。相談件数は、平成2年度は2,109件(31センター)であったが、平成5年度には8,174件(72センター)と増加している。

平成5年度の相談は、面接によるものが最も多く、全体の64.4%、電話によるもの30.8%、手紙などによるもの4.7%である。

相談の内容を平成5年度でみると、非社会的行動(内向、泣き虫等)(11.4%)、反社会的行動(強情、反抗的)(9.2%)、神経的行動(夜尿、偏食等)(5.9%)、対人関係(10.8%)、言葉の遅れ(5.6%)、健康上の不安(8.4%)、家庭教育の確かめ(12.2%)、育児上の不安(16.8%)、その他(19.7%)である。

また、両親教育インストラクターの大きな仕事の一つに、「子育て学習グループ」の育成があり、平成5年度末で333のグループ(1センター当たり4.6)が育成されている。

このグループの活動は親達に大きな自信を与えており、グループ活動の中でのちょっとした子育ての話題や相談が、意外と効果があると両親教育インストラクターたちは評価している。このような状況を見ると、核家族化が進む中で子育ての知恵の伝承が難しくなっている今日、両親教育インストラクターを中心とする子育て学習グループの活動は、子育ての知恵の新しい伝承システムとしても期待される。

2. 青少年指導ボランティアの育成

兵庫県においては、明日を担うところ豊かな人づくりを県政の重要な柱の一つとして取り組んでいる。そのため、県立の社会教育施設では、小中高校生を対象とした「ひょうごユースセミナー」をはじめ、様々な体験学習を企画し、実施している。また、学校教育においても、県下全小学校において自然学校(5泊6日、5年生対象)を実施している。

しかし、このような事業を効果的に運営するための指導者の確保は、決して充分とはいえない。したがって、当生涯教育センターにおいては、青少年の健全育成に意欲のある一般県民や社会教育関係者、大学生等を対象に、野外活動の指導のできるボランティアの育成講座を昭和60年度より開設している。

この育成講座では、習得した単位数により、初級、中級、上級の「青少年指導ボランティア」の認定証を兵庫県教育長から交付している。

受講資格、認定基準、認定の状況等は次の通りである。

(1)対象

- ① 18才以上でボランティア活動に意欲のある者
- ② 学校教育・社会教育における青少年教育指導者

(2)認定の基準

「初級」① 野外活動等の体験学習で、団体管理者等の指導のもとに班単位の児童を単独で指導できる知識と実技能力がある。

「中級」① 野外活動等の体験学習で、学級規模の児童を指導できる知識と実技能力がある。

- ② 初級の指導者に準ずる者を指導できる能力がある。

「上級」① 野外活動等の体験学習で、学年規模の児童を単独で指導できる能力があり、また、企画・立案や効果的なプログラムを作成する能力がある。

- ② 中級の指導者に準ずる者を指導できる能力がある。

なお、資格の認定は、学識経験のある者で、兵庫県教育長の承認を受け、嬉野台生涯教育センターの所長が任命又は委嘱した委員で構成する認定委員会が行う。

(3)認定に必要な単位数

区 分	理 論	実技 1 (基 礎)	実技 2 (体験学習)	実習 1 (生活指導)	実習 2 (実技指導)	合 計
初 級	3単位(9時間)	1 (3)	5 (15)	3 (48)	3 (36)	15 (111)
中 級	5 (15)	2 (6)	11 (33)	6 (96)	6 (72)	30 (222)
上 級	7 (21)	5 (15)	15 (45)	9 (144)	9 (108)	45 (333)
1 単位の履修に必要な時間数	3時間	3時間	3時間	16時間	12時間	

(注) () 内の数字は時間数

62 特集 生涯学習と資格

(4)認定証の年度別交付者数

年 度	初 級	中 級	上 級	小 計	年 度	初 級	中 級	上 級	小 計
昭和60	25	0	0	25	平成 2	5	3	0	8
昭和61	20	3	0	23	平成 3	36	1	0	37
昭和62	21	2	0	23	平成 4	32	0	0	32
昭和63	29	3	0	32	平成 5	26	2	0	28
平成元年	20	2	0	22	合 計	214	16	0	230

(5)ボランティアの登録及び活動状況等

青少年指導ボランティアの認定を受けた230名のうち、当センターに青少年指導ボランティアとして登録しているものは、平成6年3月末現在で224名である。これらの登録者は、当センターなどで実施しているユースセミナーや、県下で実施されている自然学校などで活躍している。

しかしながら、登録しているボランティアの活動状況についての追跡調査が実施されていないため、活動の正確な実態は不明であり、今後の調査に期待したい。

なお、現在の受講者の多くは兵庫教育大学の学生であり、今後、近隣の大学等にも積極的に参加を呼びかけ、受講者の拡大を図る予定である。また、今後はレクリエーション協会との相互協力についても、その可能性を検討する必要があると考えている。

3. 兵庫教育大学の実地教育と生涯学習センター事業の連携

ここに紹介する「兵庫教育大学の実地教育と当生涯学習センターの事業の連携」は、学社連携の一つの事例である。しかし同時に、教員免許の取得に生涯教育施設が関わっているという点で特色があると思われるので、紹介することとした。

(1)生涯教育センターと兵庫教育大学の連携の背景と経過

さきにもふれたように、当生涯教育センターは、昭和54年7月、都道府県立の最初の生涯教育センターとして開設された。一方、国立兵庫教育大学は、昭和53

年10月に開学され、昭和55年4月に大学院の第1回入学式が、また、昭和57年4月には学校教育学部第1回入学式が行われた。兵庫教育大学のキャンパスは生涯教育センターの敷地に接しており、両者の本部は徒歩で10分たらずの距離にある。

このように二つの教育施設は隣接しており、開設時期も同じ頃といったこともあって、発足当時から連携を保ち、協力関係を作り出してきた。中でも、野外活動関係については特に力を入れており、昭和60年以降、次のような経過をたどりながら連携を深めてきた。

昭和60年度

- ① 教育大学の実地教育Ⅳ（4学年対象、地域教育実習）の中に青少年の野外活動が取り入れられ、生涯教育センターの職員が講義（1日）と野外活動実習（1日）を担当した（場所は大学内）。
- ② 生涯教育センターのユースセミナー（事業内容等については「参考」参照）に、教育大生の有志20名余りがボランティアとして参加。以後平成元年まで続く。

昭和61年度～平成元年度

- ① 実地教育Ⅰ（1学年対象、実地基礎教育Ⅰ）の中に、生涯教育センターの見学が入れられた。
- ② 実地教育Ⅳ（4学年対象、地域教育実習）の講義（大学内）、野外活動実習（生涯教育センターキャンプ場）を生涯教育センターが担当。

(2)ユースセミナーと実地教育Ⅱの連携

昭和60年度から平成元年度までは、講義、実習、見学がそれぞれ1日という形で生涯教育センターが教育大学の実地教育を支援してきたが、これは野外活動指導者の育成を目指す生涯教育センターと、野外活動の指導力を身につけた教師の育成といった教育大学の狙いが一致したものであった。

しかし、学社連携としてはまだまだ不十分であり、平成2年度からはこれをさらに一歩進めて、生涯教育センターのユースセミナーと教育大学の実地教育Ⅱとの相乗りを実施している。即ち、教育大学は、生涯教育センターのユースセミナーに第2学年全員を実習として参加させ（必修）、ユースセミナー事業を支援する。一方、生涯教育センターは、野外活動についての基礎知識の研修を「青少年団体指導者研修会」との連動等によって行い、ユースセミナーの実習を通じて、学生の野外活動に対する技術・指導法の習得を支援するというものである。

また、教育大学が実地教育における野外活動1単位を認定するにあたっては、生涯教育センターに意見を求めることとしている。このように、生涯教育施設が

64 特集 生涯学習と資格

大学の単位認定に関わる事例は全国的にみても少なく、今後の学社連携の一つのモデルになりうるものと思われる。

さらに、野外活動の指導能力を備えた教員の育成は、野外教育を重視する兵庫県の教育にとどまらず、今後のわが国の教育にとっても大きな意味を持つものと思われる。

なお、スペースの関係もあって、連携の具体的な内容を紹介できないが、兵庫教育大学における「実地教育Ⅱの実施要領」、嬉野台生涯教育センターにおける「青少年団体指導者研修会開催要領」及び「兵庫ユースセミナー」の概要を、参考として示すことで説明にかえたい。

【参考】

【実地教育Ⅱの実施要領】概要

i. 履修学生及び単位 第2学年（全員必修）、1単位

ii. 目的

野外活動は、豊かな自然環境の中での集団生活を通じて、人間的な触合いや自然との触合いを深めることによって、児童生徒の心身ともに調和のとれた健全な発達を目指すものである。したがって、野外活動の意義は、社会教育だけでなく学校教育においても重要性が高まってきている。この科目の重要な目的は、次の3つの事項によって教師としての資質の向上を図ることにある。

- ① 野外活動の基本的な理論と実技を習得し、さらに野外活動指導法を習得する。
- ② 児童・生徒が自然の豊かさ、厳しさなどに触れるときや、集団生活の中で児童生徒の特性を理解する。
- ③ 社会教育の実際を見学し、社会教育における青少年教育に参加することによって、教育のあり方を考察する。

iii. 講義・実習内容

〔事前指導講義〕

「講義内容」

- ① 実地教育体系における実地教育Ⅱについて
- ② 野外活動における児童・生徒の観察と指導、事前調査
- ③ 学校教育における野外活動の意義、社会教育施設における青少年教育について

〔野外活動指導法〕

嬉野台生涯教育センターの「青少年団体指導者研修会」と連動し、1泊2日で

実施。

「指導内容」

- ① 学校教育における野外活動の実際とその指導方法
- ② 野営実習, クラフト実習, 応急処置等

〔野外活動実習〕

嬉野台生涯教育センターのユースセミナー（サマースクール）で実習。3泊4日。

【青少年団体指導者研修会開催要領】概要

i. 趣旨

野外活動や体験学習に必要な知識や技術を習得させ、青少年の健全育成に貢献できる指導者を養成する。

ii. 実施主体及び実施場所

嬉野台生涯教育センター

iii. 期間 1泊2日

iv. 講座内容

テント設営, はんごう炊飯, キャンプファイヤー, オリエンテーリング, クラフト, 応急処置法等。

【ユースセミナーの概要】

i. 趣旨

次代を担う青少年の特性を伸ばし、個性豊かな人間を育てるため、斬新にして多様な学習・訓練の場を設け、学校教育では実施しにくいテーマを設定し、これに興味と熱意を持つ児童生徒が自由に参加できる「ひょうごユースセミナー」を実施する。

ii. 実施主体

ひょうごユースセミナー運営委員会

iii. 開催場所

嬉野台生涯教育センター、県立文化会館等県下の社会教育関係施設及び研究機関

iv. 開催時期

夏期休業中（サマースクール）

冬期休業中（ウインタースクール）

春季休業中（スプリングスクール）

66 特集 生涯学習と資格

v. 対象

県下の小学生，中学生，高校生

vi. 学習内容

思考力を鍛える，想像力を豊かにする，自然を探る，郷土愛を育てる，健康な体力をつくる，生活技術を高める，国際感覚を養う，新しい自己を見付ける，社会を知るといったような，児童生徒の学習要求及び時代のニーズを満たすものの。

vii. ユースセミナーの歩み

ユースセミナーは昭和55年から実施しており，平成5年度は30施設で86コースを行った。その内，嬉野台生涯教育センターでは夏28，冬7，春5の40コースを実施した。また，ユースセミナー発足以来，県下から参加した児童生徒は53,134名である。なお，教育大学の教育実習は，嬉野台生涯教育センターのサマースクールで実施している。